

第30回

## 第一次世界大戦

監修・講師  
山下範久

### 学習のねらい

ドイツが東方へむけて積極的な対外政策へと転換し、ヨーロッパの列強間の帝国主義的な利害関係は緊張を増して三国同盟と三国協商の間の対立の構図が生じた。オスマン帝国の国力の低下によってバルカン半島における民族自立を求める動きが強まり、サラエボ事件をきっかけとして第一次世界大戦が勃発した。第一次世界大戦は各国の経済力・技術力が全面的に動員される総力戦となり、大戦中に毒ガスなどの新兵器も投入された。大戦は、アメリカの参戦により協商国側の勝利に終わったが、戦争で疲弊したヨーロッパにかわって戦後の国際秩序を主導したのは、世界最大の経済大国となったアメリカであった。

＜第一次世界大戦の勃発＞

三国同盟 三国協商 サラエボ事件

＜兵器の発達と総力戦＞

総力戦 毒ガス 機関銃 無制限潜水艦作戦

＜アメリカの経済発展＞

パリ講和会議 国際連盟 ヴェルサイユ体制

### ■ ■ 第一次世界大戦の勃発 ■ ■

ビスマルクの退任後、ドイツのヴィルヘルム2世は東方へむけて積極的な対外政策をとりはじめた結果、列強間の同盟関係が組み替えられることとなった。ドイツはロシアとの同盟を破棄し、オーストリアとの同盟に軸足を置き、イタリアを加えて**三国同盟**の形成に進んだ。他方、ドイツのとり 3B 政策が自国の 3C 政策と衝突するイギリスはフランスおよびロシアに接近した。ドイツと緊張を抱えるようになったロシアもまたフランスに接近し、**三国協商**が成立した。オスマン帝国の国力の低下はバルカン半島における民族自立の動きを強め、そこに列強の利害がからんで「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるような不安定な状態になった。サラエボでオーストリアの帝位継承者暗殺事件が起こると、対立がエスカレートし、1914年、第一次世界大戦が勃発した。

### 兵器の発達と総力戦

第一次世界大戦は、あらかじめ準備された兵力で戦われるだけでなく、戦争中に兵器の開発や生産のための動員が進行し、各国の経済や社会の全体が戦争遂行のために組織化されることとなった。このように各国の経済力・工業力・技術力、国民の全体が戦争に動員される戦争を**総力戦**という。

第一次世界大戦では、科学技術の戦争利用が鮮明になり、大戦中に飛行機、潜水艦、戦車、**毒ガス**といった新兵器が次々に開発、投入された。

銃器の発展も進み、特に**機関銃**の導入は、戦争による人命の損失を著しく増やした。銃火から身を隠す必要から、第一次世界大戦では、戦線に沿って長く伸びる**塹壕**が構築され、戦争の長期化の一因となった。戦車や毒ガスは塹壕戦への戦闘の変化のなかで開発されたものである。

### アメリカの経済発展

アメリカは当初、中立を保っていたが、ドイツの無制限潜水艦作戦によって、反ドイツの世論が高まると、平和と民主主義、人権を守る戦いという大義を掲げて参戦した。アメリカの参戦により、同盟国の敗勢は決定的となり、1918年、ドイツでは革命が生じてヴィルヘルム2世が退位しドイツ共和国が成立し、協商国と休戦協定がむすばれて同盟国は敗戦した。1919年に開かれた**パリ講和会議**によって、戦後秩序が定められ、ウィルソン大統領の提唱する史上初の国際平和維持機構である**国際連盟**を要として、**ヴェルサイユ体制**が成立した。

大戦は、同盟国だけでなく、協商国をも疲弊させた。戦争による破壊だけではなく、戦費調達のための莫大な債務を抱えていた英仏などの戦勝国は、パリ講和会議でドイツに莫大な賠償金を課した。大戦を通じて世界最大の経済大国の地位を固めたアメリカは、ドイツに借款を提供し、賠償金の支払いを通じてのヨーロッパにおける資金の循環、そしてヨーロッパの戦後の復興を支援した。

債権国となったアメリカは、工業生産だけではなく、金融の面でも世界をリードするようになり、国際金融の重心はロンドンからニューヨークへと移た。以後、20世紀の世界経済はアメリカを中心に展開していく。

#### 考えてみよう 調べてみよう

- 第一次世界大戦は、それ以前の戦争と比較してどのような特徴をもっていたのか、調べてみよう。
- パレスティナ問題について、どのように利害が対立しているか調べてみよう。
- 同盟関係は、国際秩序を安定させるか不安定にするか、考えてみよう。